

4. ドイツにおけるサッカーのプロ化 ～スポーツ・メディア・商業化～

高津 勝

1. 課題と方法

チャンピオンを志向する競技スポーツの論理は、統一されたルールのもとで競技力の向上をひたすら追求する。そこには、アマとプロの垣根を設定する論理必然的な根拠はない。しかし、競技スポーツの論理は、それ自体、自律的に展開するのではなく、社会的要求・条件の許す範囲内において貫徹するに過ぎない。人間は、競技スポーツの論理を組み直し、新しい質のスポーツを追求することさえするのである。

オリンピック運動の現況が端的に示すように、メジャースポーツは、今日、プロ化を抜きにして将来を展望しえない段階を迎えている。スポーツのプロ化は、「ショウ化」と競技力の高度化を推し進め、無数の観衆・視聴者の期待に応えつつ、プロとアマの分極化を促している。その意味で、スポーツのプロ化とは、競技力の高度化を背景にして、スポーツが「ショウビジネス」として成立・確立する過程であるといえよう。

スポーツのプロ化は、今日、企業のスポンサーシップとマスメディアなくしてありえない。スポーツの未来を洞察するためには、スポーツ・マスメディア・商業主義の関連を立体的に把握し、プロ化の社会的なインパクトをより包括的に認識することが重要である。

スポーツのプロ化とかかわって、もう1つ重要なことは、それがゲームに、そしてまた、プレイヤーに、どのような変化をもたらすのか、という問題である。そのような設問の背後には、プロフェッショナルとしてプレイすることがプレイヤーにとって専門的な職業となること、つまりプロ化とは、本来、プレイヤーの職業的専門性の社会的・制度的な確立過程をも含意する、という問題意

識が存在する。

以上のことを念頭におきつつ、旧西ドイツ＝BRDサッカー・ブンデスリーグの生成・展開を例にとり、プロ化の歴史的過程、ならびに制度化とその社会的インパクトについて、検討することにしたい。サッカーは、旧西ドイツのみならず、現在のBRDにおいてもなお、スポーツのプロ化に主導的な役割を果たしている種目である。

2. サッカーのプロ化の時期区分と概観

戦後西ドイツ＝BRDにおけるサッカーの組織状況を示せば、表1のようになる。以下、プレーに対する報酬とその制度的形態に準拠してドイツ・サッカーのプロ化の過程を4期に分け、歴史的に概括しておこう(1)。

(1) 第1期(1870年代～1940年代)

ドイツにおける近代フットボールの歴史は、イギリスで成立したAssociation Footballの受容に始まる。1870年代のことであった。1880年代には、フットボールクラブが結成され、競技会が開催されるようになる。1900年、全国組織としてドイツサッカー同盟(DFB)が結成され、1903年に全国選手権大会を開催し、翌1904年、世界サッカー連盟(FIFA)に加盟した。

DFBは、組織されてまもなく、ブロークンタイムペイメントや旅費支給の問題に直面したが、大勢はアマチュアリズムを奉じてそれらの措置を容認しなかった。しかし、プロ化の傾向はその後進行し、1920年代には企業的な経営体を基礎にしてサッカーの組織化を行おうとする潮流が組織内に生れた。

1930年、DFBは、アマチュア規定違反を理由に、ルール地域にあるGelsenkirchenの鉱山労働

者のサッカークラブ＝「シャルケ 04」の競技参加資格を停止する。DFB指導部の主流は、組織的統一を確保する観点から組織内におけるプロ化の動きを抑制し、再びアマチュアリズムを堅持したのである。

(2) 第2期 (1950年代)

戦後、サッカー競技は興行的形態をともしないつづき復活し、1949年、上部リーグ (Oberliga) に「契約プレーヤー」の制度が導入された。「契約プレーヤー」とは、クラブと契約をとりかわし、副業としてサッカーを行う、パートタイムの「プロ」プレーヤーのことである。やがて、この制度はサッカーのみならず他の種目にも導入されるようになり、ドイツ・スポーツの「プロ」化を先導する役割を担っていく。

(3) 第3期 (1960年代)

第3期を特徴づけるのは、DFBからライセンスを取得したクラブによるブンデスリーグ (Bundesliga) の結成と「ライセンスプレーヤー」、すなわち上述のクラブの「職員」としての肩書きを持つ、フルタイムの「プロ」プレーヤーの登場である。

1962年、DFBと上部リーグ (西部、南部、北部、南西部) およびベルリン市リーグに属していた16のクラブがブンデスリーグを組織した。この制度的によれば、ブンデスリーグはDFBによってライセンスを与えられたクラブによって組織され、DFBからライセンスを与えられたプレーヤー (その資格は、クラブと労働協約を結んでいること、満18才以上であること、品行方正であること等) によって競技される。これをもって、旧西ドイツ＝BRDのサッカーは、合法的にフルタイムのプロフェッショナルプレイヤーを認めたことになる。しかし、「ライセンスプレーヤー」という用語に示されるように、DFBは、ブンデスリーグがプロ組織であることを明示しようとはしなかった。

(4) 第4期 (1970年代～)

第4期を特徴づけるのは、フルタイムのプロフェッショナルプレイヤー時代の本格的な到来、およびスーパースターの登場である。そして、1974年にはブンデスリーグ第2部が結成され、サッカーのプロ化はさらに進行することになる⁽¹⁾。

3. プロ化の決定的契機とその作用

Rolf Lindnerは、俸給およびトレードマネーの自由化が、フルタイムのプレイヤーによるプロサッカーの本格的な展開を画期づけたとし、その転換点をイギリスにおいては1960年、BRDにおいては1963年、つまり60年代に求めている⁽²⁾。

彼によれば、そのような転換を促した決定的契機は、1956年に始まるヨーロッパ選手権の開催であった。このイベントを介して、クラブサッカーの国際化、メディア化 (サッカーのメディア競技化・テレビ競技化)、商業化が進行したのである。

たしかに、ブンデスリーグの成立によって、BRDでは有能なプレーヤーの国外流出が抑制され、国際的に有数のクラブチームを育成することが可能になった。だが、ショーとしてのプロサッカーは、メディアの有機的な構成成分、つまり「マスメディアの娯楽」となることによって、内部と外部、上からと下から商業化の圧力を受けざるをえなくなるのである⁽³⁾。

そこにおいて、サッカーは構造的に変化・変容することになる。すなわち、かつて、「アマチュア」プレーヤーは地域の英雄であった。彼等は、最前線であるクラブ会員と日常的に接触し、親密な関係を築いていた。いまや両者は、スターとファンの関係、娯楽提供者と消費者の関係に転化する (表2、参照)。クラブと観客の直接的な社会的関係の喪失にとどまらず、好成績をあげることを至上課題にすることによるプレーヤーの引抜きやクラブの合併・寡占化、弱小化したクラブは強豪クラブの「下請け」化、業績主義の原理のアマチュアサッカー界への浸透とクラブの序列化等々、

変化は多面的、かつ構造的なものである。

しかも、それらの変化は、クラブの経済的基盤の変容と結びついていた。つまりプロ化のもとで、クラブの競技成績は、なによりもクラブの経済力に依存するようになるのである。だが、入場料収益だけで高騰する人件費や管理・運営費を維持することはできない。クラブ財政は、広告料と放映権料への依存を深めざるをえなくなるのである⁽⁴⁾。

その過程で、マスメディアは、テレビ視聴者を意識しながら、新しいカメラアングルでプレイの魅力を開発する。しかし、それは、必ずしも旧来の観衆、つまり勤労者の文化的資質や社会的、文化的空間と結びついたものではない。ショースポーツとしてのプロサッカーが提示するものは、「スポーツ、商業、マスメディア的プレゼンテーションの共生⁽⁵⁾」である。

注：

(1) ドイツ・サッカー史については、Zoller, Martin u. a. (Hrsg.):Fußball in Vergangenheit und Gegenwart Bd.1, 1978 Berlin(Ost)., Martin,

Hans Günter:Deutschlands Fußball.Geschichte eines rasanten Aufstiegs; Vereine,Spieler, Trainer,Tore seit 1945,Düsseldorf 1990., Schulze,Ludger:Die Geschichte des Europapokals, München 1990., Schulze,Ludger: Die Geschichte der Deutschen Fußball-Nationalmannschaft, München 1986., Ulfert Schröder : Fußball in Deutschland. In:Huba, Karl-Heinz(Hrsg.):Fußball-Weltgeschichte von 1846 bis heute, 9., aktualisierte Neuaufl.,München 1989 を参照。

(2)Lindner, Rolf:Die Professionalisierung des Fußballsports. In:Lindner, Rolf(Zusammenstellung),Der Satz »Der Ball ist rund« hat eine gewisse philosophische Tiefe. Sport,Kultur,Zivilisation. Berlin(West)1983, S. 61.

(3)Knut Hickethier:Klammergriffe. In:Lindner, Rolf(Zusammenstellung),Ibid., S. 67ff.

(4)Kalthoff, Helmut: Wie finanziere ich heute einen Sportverein? Erfahrungen und Probleme eines Vereinsmanagers. In:Pilz, Günter A. (Hrsg.) ,Sport und Verein, Reinbek bei Hamburg 1986, S. 178-179.

(5)Lindner, Rolf:Ibid., S. 62.

表1：DFBの組織的推移（1951～1990年）

	会員数(a)	クラブ数(b)	チーム数(c)	(a)/(b)	(c)/(b)
1951 年	1, 416, 256	13, 076	54, 053	108. 3	4. 1
1964 年	2, 199, 246	15, 169	69, 353	145. 0	4. 6
1974 年	3, 413, 076	17, 175	103, 392	198. 7	6. 0
1984 年	4, 676, 427	20, 943	129, 166	223. 3	6. 2
1990 年	4, 829, 698	21, 826	121, 912	221. 3	5. 6

Martin, Hans Günter:Deutschlands Fußball.Geschichte eines rasanten Aufstiegs; Vereine,Spieler, Trainer,Tore seit 1945,Düsseldorf 1990, S. 8.

表2：サッカープレイヤーのライフスタイルの変化

	50年代 (1956/57年頃まで)	60年代 (1965/66年頃まで)	70年代
本職	労働者	「職員」、プロ	プロフェッショナル
月収	DM. 320- +賞与	(公称) DM. 320-/DM. 1200- +賞与、手付金	トッププレイヤー：税込2～5万 中堅：税込 DM. 5～7千 補欠：税込 DM. 2.5～4千 +賞与、手付金
特典	軽労働 「疲れない」仕事	副業 「外見上の」労働契約	
副収入	無料飲食	代理店 宣伝	「代理店」、宣伝 サイン会、著書 ショービジネス
努力目標	安定した職業 (職員待遇)	「懸命に働き、 家を建てる」	金利生活者 「実業家」
経歴	飲食店、宝くじを 扱うタバコ店	飲食店、タバコ店 スポーツ用品代理店 ガソリンスタンド 貸家	不動産所有者 スポーツ用品総代理店 サービス・広告エージェンツ パブやディスコ経営等
社会的 志向	伝統的で尊敬に 値する労働者	小ブルジョアへの 上昇	「新中産階級」の代表
経歴 モデル	Gottschalk (RW Essen) Berni Klodt (Schalke 04)	Helmut Rahn Stan Libuda	Beckenbauer Netzer Overath

Lindner, Rolf/Heinrich Th, Breuer: Sind doch nicht alles Beckenbauers. Zur Sozialgeschichte d. Fußballs im Ruhrgebiet, Frankfurt a. M. 1978 (3. Auflage 1982), S. 95.